

講座名	区分	期 間	受講者数
精神薄弱教育研修講座		9月11日～9月13日	6
養護教育コンピュータ研修講座		10月2日～10月4日	11
心身障害幼児教育実践研修講座		10月7日～10月9日	35
重度・重複障害児コミュニケーション研修講座		10月22日～10月24日	11
養護教育教材・教具実技研修講座		11月11日～11月13日	22
計			284

(2) 基本研修

講座名	区分	期 間	受講者数
養護教育経験者研修Ⅰ-A 盲・聾・肢・病		9月25日～9月27日	5
養護教育経験者研修Ⅰ-B 精神薄弱		9月3日～9月5日	18
養護教育経験者研修Ⅰ-C 重度・重複		9月25日～9月27日	15
養護教育経験者研修Ⅱ-A 盲・聾・肢・病		10月2日～10月4日	4
養護教育経験者研修Ⅱ-B 精神薄弱		8月28日～8月30日	15
養護教育経験者研修Ⅱ-C 重度・重複		8月28日～8月30日	16
養護教育経験者研修Ⅲ		8月28日～8月30日	6
計			79

第4節 教育調査・研究事業

養護教育センターでは、県下の養護教育における普遍的な課題あるいは今日的な課題について、専門的な調査・研究を行い、本県養護教育の充実発展に寄与するとともに当センターにおける教育相談、研修、研究機能の充実及び各学校における教育実践の発展を図ることを目的とし調査・研究事業を推進しており、本年度は、三つの共同研究と個人研究を行った。

共同研究は、養護教育に関する学校現場の課題及び社会のニーズについての情報収集、分析、検討を行い、課題を設定し、研究を行っている。

1 養護教育における教材・教具の活用に関する研究

—教材・教具の工夫と活用の実践（その2）—

（最終年次）

— 研究の趣旨 —

教材・教具の活用に関する研究は、過去2年間の調査研究や実践研究を生かし、研究協力校における教材・教具の工夫と活用についての実践的な研究を推進した。

(1) 視覚障害児の算数指導のための音声発声装置「おとぼー」を作製し、活用した事例（盲教育）

A男は、操作的な学習が好きであること、点字の数字の弁別は、まだ獲得していないことから数の合成の「確かめ」に音声を導入することが適切ではないかと考え、教材・教具「おとぼー」を開発した。触覚や聴覚を使い学習する「おとぼー」によりA男が念頭処理をして予想し、確かめるという授業を通して数の合成について確実性が増してきた。

(2) 聴覚障害と知的な遅れのあるB男が教科の学習に意欲的に取り組める教材・教具「マッチングカード」を作製し、活用した事例（聾教育）

B男が自分で操作しながら考え、自分で正答を確かめら